

ほっとCommunication

2018年 1月発行
第77号

発行 後援会
印南 宏
発行責任者 印南 宏

新年あけましておめでとうございます。
本年も昨年と同じく、毎議会終了後、市内の各駅にて「ほっとコミュニケーション」を配布し、議員活動を進めて参ります。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



昨年の国政

昨年の国政は解散・総選挙もあり、例年より忙しい日々が続きました。七月の都議選での小池ブームの到来により、都民ファーストが第一党になったと思つたら、十月に突然の解散による衆院選へ突入。結果は自民・公明の与党が三分の二の勢力を維持する圧勝となり、安倍一強体制は、より強固なものとなりました。一方、民進党が三つに分裂し、立憲民主党が野党第一党になるなど、政局は混乱の度を増しています。

昨年の我孫子市

我孫子市では昨年三月、市内の排水路脇でベトナム国籍の小学三年、リンさんの遺体が発見される悲しい事件が起こりました。しかし、スポーツの分野では千葉県中学校駅伝大会において、白山中学校の男子が大一新記録で二年連続五度目、女子が二十四年ぶり三度目となる男女アベック優勝を果たしました。先月に行われた全国大会にも出場し、男子が大会新記録で全国優勝、女子も全国六位に入賞

するなど、我孫子の名を全国に広めるすばらしい成績をおさめました。

また、第七十回秋季関東地区高校野球大会において、中央学院高校が初優勝、来春の全国選抜大会の出場が期待されています。

新年の抱負

迎えた二〇一八年は市議会議員の任期四年の折り返しに入りました。議会改革の懸案事項となつている「定数の見直し」に今年六月を目途に結論を出してまいります。また、我孫子市にとつて、数十年に一度の大事業である「新クリンセンターの建設」に確かな道筋をつけることや、我孫子の財産である手賀沼エリアを有効活用するため、昨年リニューアルした手賀沼親水広場「水の館」の経営安定化、そして、近隣市との広域な事業である「つながるウォータースライドTEGA」アクションプランを確実に実現していく新たなスタートの年にしたいと思つていきます。

私は、今年も現場主義をモットーに、年間四回の定

例市議会で毎議会の登壇、市民の声の代弁者として、質問と提言を続けてまいります。また、市内各駅で早朝の活動報告を続けながら、「夢のふくらむ」我孫子づくりを目指して、市議会の先頭に立って取り組んでまいります。引き続きのご指導とご支援をお願いいたします。

『政治に無関心でも生きて行くことはできるが、政治に無関係では生きていくことはできない』
だから『政治への自らの参画が必要となつている』

印南 宏 現在の主な役職

- 我孫子市議会 環境都市常任委員会 副委員長
- 議会改革特別委員会 副委員長
- 都市計画審議会委員
- 会派「あびこ未来」代表
- 成田線を便利にする議員の会 副会長
- 連合千葉 連合千葉議員団会議 前幹事長
- 電機連合 電機連合議員団会議 ブロック幹事
- その他 我孫子市サッカー協会 顧問
- 我孫子市ソフトボール協会 顧問 など

◆十二月定例市議会◆

十二月四日(月)～
十二月二十一日(木) 十八日間

《主な議案》

十二月定例市議会は常勤一般職の給与を人事院勧告に伴う給料月額及び勤勉手当の変更、マイナンバー制度に伴うシステム変更、小中学校の音楽備品購入、要保護・準要保護者の就学援助費の入学前支給などで、三億五千三百万円を追加する平成二十九年一般会計補正予算や、保育園設置条例の改正、指定管理者の指定など十七議案。その他、請願二件、発議案一件。

- 市が個人番号を独自に利用する事務、市が特定個人情報を利用する事務並びに市内部の他の実施機関及び他団体と情報連携する事務を定めるとともに、題名をあらためる条例
- 保育園設置条例の一部改正(根戸保育園を民間に移管する為)
- 自転車条例の一部改正(土地区画整理事業の住居表示の再実施に伴う改正)

○公民館条例の一部改正(市内に在住、在勤し、又は在学する者以外が公民館を使用する使用料の設定)など。

《請願》

○核兵器禁止条約署名・批准請願：採択

○移植ツーリズムを禁止する法律等の整備に関する請願：継続審査

《発議案》

○核兵器禁止条約署名・批准意見書：採択

12月議会 印南宏の個人質問	
1. マイナンバー制度 <現状と課題>	・カードの発行枚数 ・市独自の活用策
2. 新廃棄物処理施設 <現状と課題>	・情報公開 ・事業の運営方式



《主な争点》

市議会議員の任期は四年間、十二月議会は二年を経た折り返し点にあたり、正副議長の選任や各議員が所管する常任委員会の変更が行われた。議長は清風

会・椎名議員(三期)七十二歳、副議長には公明党・江原議員(三期)六十五歳が選任され、印南は環境・都市常任委員会(前教育・福祉常任委員)に所属することになった。

平成二十九年度の人事院勧告に基づいて一般職の報酬の改正を可決した。それにより、月額及び勤勉手当の支給割合を改訂(十〇・一%／十〇・一カ月)。

この人件費のアップによる年間の影響額は約四千三百万円、一人あたり四級主査で年額五万四千円のアップとなる。なお、常勤特別職(市長他)、非常勤特別職(議員他)の報酬の改正は実施せずに見送ることにした。

その他、市の事務処理で生活保護費及び児童扶養手当の誤りが発覚し、職員に口頭注意処分を行うとともに、管理・監督責任として市長、副市長の報酬を十%(一カ月)削減する議案を可決した。

宏はこう考える

個人質問から抜粋

マイナンバー制度

私は今日まで、マイナンバー制度について何度となく登壇し、質問をしてまいりました。この制度の導入で自治体の業務の流れが変わり、行政の効率化が一

段と向上するチャンスではないかという視点と、利用する市民にとってメリットが見えにくく、使いづらい制度である点などを指摘しました。

現在、我孫子市は千葉県内の市町村のなかで、個人番号カード発行枚数やマイナンバー制度を使った各種手続きの対応面では進んでいる先進市に位置付けられています。

十二月議会ではマイナンバー制度の周知徹底策を再度実施するとともに、さらなる発行枚数の増に向けて、我孫子市独自の活用方法を確立することが急務であると要望しました。カード普及の拡大策として近隣市で既に可能となつている全国どこにコンビニでも住民票や印鑑証明書が発行できるシステムの導入、その他、マイナンバーカードを国民健康保険証との一体化なども視野に入れるべきとの提案をしました。

市役所内の個人番号利用事務は、社会保障分野、税分野、災害対策分野と広範囲にわたっています。今後のマイナンバー制度の多面的な活用には、業務、制度、情報システムを総合的に総括し、どの部署が効率的で効果的かを判断する新たな部署の必要性を訴えました。

【新廃棄物処理施設 (新クリーンセンター)の建設】

現在、市では老朽化した焼却施設を修繕しながら耐用年数が過ぎた施設で焼却事業を行っています。そこで新廃棄物処理施設建設準備室を中心に、新たな焼却施設の平成三十三年度中の稼働に向けて、国の交付金を活用しながら鋭意必要な作業・調査等を行っています。整備事業を進める中で、私が気になっているのが、情報公開の考え方についてです。廃棄物中間処理方式の選定において、また事業の運営方式の検討などにおいても、まったく市民に途中経過を明らかにしない方法で、決定した後、報告書として明示するやり方は、如何なものかと思っています。中間処理方式や施設整備運営方式等の検討なども途中経過を示しながら決定していく方法が望ましいと私は考えています。

また、約百二十億円を投資する四十年ぶりの大型事業である新焼却施設の整備は、この事業によって、今より魅力ある焼却施設にならないと新たに建設する施設として意味がないとも思っています。新焼却施設は市民から愛され、地域に開かれた施設にならなければならぬと考えています。

その為には、環境への配慮はもちろん、特に ①発電・エネルギーへの利用方法の検討 ②施設の修景(川沿いの自然景観を保持)、施設内の緑化の強化 ③環境学習機能の充実(ふれあい工房の機能) ④災害時の際、廃棄物の受け入れ機能などは確実に新焼却施設に機能として持たせなければなりません。また、ごみの焼却で発生するエネルギーを、より効率の良いエネルギー回収システムを整備することによる発電等のシステムの有効な活用方法を市民に示していく必要があります。

◆宏の「気がなる」！◆ 人口減少の日本で これから起きること

昨年末の十二月二十二日に厚生省が発表した二〇一七年の人口統計で、一年間で生まれた子どもは二年連続で百万人を下回り、過去最少の九十四万一千人。死亡数から出生数を引いた「自然減」は四十万三千人で、統計を始めて以来、減少幅は過去最大となった。日本の人口は二〇〇七年以降、十一年連続の人口減少となり、縮小傾向が改めて浮き彫りになった。

先日読んだ講談社/現代新書「沖合雅司著、「未来の年表」

の中には、二〇一五年時点において一億二千七百万人を数えた日本の総人口が四十年後には九千万人を下回り、百年も経たぬうちに五千万人ほどに減る。こんなに急激に人口が減るのは世界史において類例がない。私たちは長い歴史にあって極めて特異な時代を生きている。今の日本、喫緊の課題として、①出生数の減少 ②高齢者の激増 ③勤労世代(二十歳から六十四歳)激減に伴う社会の支え手の不足 ④これらが絡み合っ起ころ人口減少。これらに現実的に対応していくには、今日まで歩んできた拡大路線を見直し、従来の成功体験と決別した戦略的に進むことが必要である。我々が目指すべき日本は、人口減少後を見据えたコンパクトで効率的な国への作り替えである。と結論付けている。

今までのように政治家任せ、役人任せでの無責任体制では済まなくなるだろう。自分たちの手で未来を変えていくしか方法はないのである。そして日本の人口を維持し、将来的に増加させるにはトップリーダーたる首相が若者に希望を抱けるような「夢のふくらむ未来」を語る必要がある。まずは、それからがすべてのスタートと思うのだが。

◆十二月議会トピックス◆ 柏ナンバーデザイン決定！

我孫子市は柏市と共に「柏ナンバー」の図柄入りナンバープレートデザインの提案・提出した。(十一月一日付)「柏ナンバー」の管轄区域は柏市と我孫子市であることから、両市にとって共通資源である「手賀沼」や「花火」、懸け橋となる「手賀大橋」を表現した作品が選ばれた。今年の七月頃に国で確定、十月頃から、このプレートが交付開始となる予定である。



決定した柏ナンバー



詳細は議会だより、市議会HPの録画等、いつでもみることができます

<http://www.discussvision.net/abikosi/2.html>

賃金が支払われない、いきなり解雇されたなど労働問題で困ったら

なんでも労働相談

0120-154-052

我孫子雑感

◆十二月議会の争点の一つに市長、副市長の報酬の一部を減額(新年一月分給料×10%)させてほしいという議案に提出されたことが挙げられる。市議会に對し、市長は自らの報酬を減らして、職員が犯した事務処理の誤りについて管理・監督責任を負いたいという議案である。事務処理の誤り内容は、児童扶養手当などの未支給が三件、生活保護費の過支給が一件である。一人で、多く支給した分の返還を求めない。つまり税金の無駄遣いを発生させてしまったことへの責任である。実は、この事務処理の誤りの他に、今年八月には損害賠償金支払いの専決処分(約二年分)を議会に報告し忘れていたことが発覚し、議会で陳謝していた。続いてしまった事務処理の誤りに對し、市は十一月に「事務処理ミスの防止について」を検証と再発防止に向けてをまとめ、小冊子にして議会に提出した。全庁挙げて再発防止に取り組む旨を定めた内容である。しかし、残念なことに、私の会派が十二月議会前の会派別懇談会で指摘した「四小児童保育室委託に係る消費税の返還」でも、児童保育室の運営は

消費税が非課税であるのに市が支払っていた消費税分の二十七年分の一部が返還されないことが明らかになった。間違いは誰でも起こすものと考えるが、これだけ続くと他にもあるのではないか。市役所内の仕事の進め方に問題があるのでは。基本は管理・監督者の日頃からの姿勢にあるのではないかと思ってしまう。当たり前の普通に行う仕事ぶりが問われている。また、市議会の市政へのチェック機能の強化も必要だと強く感じた十二月議会であった。

◆国の来年度予算に「教育の無償化」が見えてきた。自民党が昨年、十月の衆院選で二兆円の政策パッケージを策定すると表明。教育費の負担軽減のため、幼児教育の無償化などが盛り込まれている。ここで重要なことは義務教育の小・中学校で無償化されているのは授業料と教科書だけなのである。それ以外に給食費、補助教材費、修学旅行費などが必要であり、文科省の調査によると公立小学校では全国平均で六年間に児童一人当たり約六十一万円を集めている。これら「広義の授業料」と呼ばれる費用を無償としているのは、一部の自治体に過ぎない。我孫子市議会でも国政の教育無償化

の機運に呼応して、無償化について、今日まで多くの意見が出てきたが、現在、教育委員会でも検討していることは義務教育における第三子以上の給食費を無償化できるか否かである。財政難のなかで限られた財源をどのように教育の無償化に使うべきなのか、教育の公平性の視点での難しい判断が求められている。

◆昨年、将棋の世界は藤井聡太四段(十五歳)や「ひふみん」と加藤一二三・九段の人気沸騰で私も一躍、将棋ブームに入り込んだ一人である。さらに昨年未、将棋の世界で大きなニュースとして飛び込んできたのは、羽生善治棋聖が歴史的な快挙を達成したことである。なんと史上初の永世七冠を達成。ちなみに七冠とは棋王、棋聖、王座、王位、王将、名人、竜王で、永世の資格は棋戦ごとに条件が異なる。羽生以外に複数の永世資格を持つのは、故大山康晴十五世名人と中原誠十六世名人が各五つと、渡辺棋王の二つだけである。永世資格者が誕生するのは当分先のこととなる。政府が史上初の羽生永世七冠に對し、国民栄誉賞の検討に入ったことも十分に納得できる。ちなみに中学生棋士、藤井聡太四段の二〇一七年度の成績をみると

対局数、勝利数、勝率すべて一位とすばらしい成績を治めている。彼が永世資格の冠をいつ取得できるのか、楽しみである。頼もしい若者の活躍を心から期待している。

◆忘年会・クリスマス・新年会とお酒の飲む機会が多くなるシーズン、皆さんの体調は大丈夫でしょうか。

先日、私は家内からお酒の飲み方で厳しい警告を頂いた。前の晩の記憶がないなどのアルコール依存症にならないように心配をしているとのことであった。厚生労働省の調査では、アルコール依存症の人は全国に約百七万人いる。依存症予備軍を含めると二百九十万人超である。その中で治療中の人はわずか四、五万人ほどという。「アルコール依存症は病気」という社会全般の理解こそが今、必要であり、それが早期治療につながる。申し添えておくが、私は、よく酒を飲む者に分類されるが、アルコール依存症に至っていないと診断されている。ご安心を。



宏

